



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和6年 5月 31日

第 3 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

『心痛』

校長 小熊 誠

5月23日(木)・24日(金)、令和6年度全日本中学校長会総会に出席してきました。その中で、文部科学省から本年度の5つの重点の1つとして「いじめ問題への対応」について児童生徒課から話がありました。特に「SNSに関する事例の増加」、「初期対応の重要性」、「組織での対応の重要性」について説明があり、重大事件化している事案も増え始め、どの都道府県のどの学校も対応に苦慮していることが分かりました。さいたま市でも、いじめの問題について、全市をあげて取り組んでいます。特に、心が悲鳴を上げやすい時期と言われている5月～6月を大事な時期と捉え、6月を「いじめ撲滅強化月間」と定め、“市をあげて子どもたちの心のケア”にあたっています。日進でも5月9日(木)にスクールローヤーの森田弁護士を講師としてお招きし、SNSに関する実際の事案を基に、便利さのすぐそばには、恐怖が潜んでいるというお話をいただきました。その中で、生徒たちには「心のコップ」の話が心に深く刻まれたようです。「心のコップ」が一杯になる量は、人によって違い、いつ一杯になり、溢れ出してしまっているのかは、見えないし、分からない。ではどうすればいいのだろうか、という話でした。これは、私が、何度か生徒たちに話をしている『心痛』の話と同じです。そこで、6月10日(月)の朝礼では、生徒たちに向けて再度以下の話をしたいと思います。私は、生徒たちには、「心の痛み」の分かる人であって欲しいと願っています。それが、私の教育の根幹にあると考えています。



骨折は誰の目にも分かります。だから誰も足を骨折している人に「走れ」とは言いません。しかし、心の痛みは誰にも見えません。だから「走れ」と言ってしまう人がいるかも知れません。でも走れないのに「走れ」と言われた人はどう感じるでしょうか？自分でもどうして走れないのか分からない場合もあります。また例え理由が分かり、「心が痛いので走れません」と言っても誰の目にも見えません。理由も分からず、理由を言っても分かってももらえず、「心の痛み」、『心痛』は、さらに深く深く進行していきます。皆の中にもそんな「痛み」を経験したことのある人もいるかもしれません。もしかしたら、皆の周りで、そんな「痛み」に苦しんでいる仲間が気が付いた人もいるかもしれません。普通、人は、自分の体の健康を心配し、体にチョットした違和感を覚えたら医師に相談したりします。また、癌のように知らないうちに体を蝕んでいく病もあります。そこで人は、定期的に健康診断を受け、その診断結果によっては、薬をいただいたり、治療に入ったりします。では、心の「痛み」、『心痛』は、どこで気がつき、どこに相談し、どこで治療すればいいのでしょうか？私は、その一つが家庭での会話や学校での先生や仲間との会話であり、毎日書いている「生活記録ノート」であり、定期的に行っている「アンケート」であり、「面談」であり、今毎朝取組んでいるスクールダッシュボードであると考えています。これらを有効に使い、自分から自分のチョットした違和感に気が付き、SOSをだすことはとても大切です。もし皆がそんな心や体の違和感をチョットでも自覚したら、医師に相談するように、周りの誰かに相談することが大事になってきます。また、周りの仲間のそんな症状に気が付いたら、声掛けをしてあげる勇気も大事になってきます。皆にとって医師とは、身近にいる信頼できる大人であり、声掛けができるのは、信頼できる仲間だと思います。相談することは決して恥ずかしいことではありません。「痛み」が増す前に、まずは自分から一歩踏み出してみてください。また、「痛み」をこらえている仲間が気が付いたら、背中を押してあげたり、声を掛けたりしてみてください。私たちは皆で相談しやすく、声の掛けやすい環境を創っていくことが必要です。特に仲間からの声掛けは、何よりの薬になるはずです。見えない敵『心痛』は「いじめの芽」にも変化していきます。この『心痛』と戦い、「いじめの芽」を撲滅していくには、予防と早期発見・早期治療が一番です。皆で、心と体のチョットした違和感を感じ取る感覚を研ぎ澄まし、仲間の「痛み」の分かる、お互いに思いやる心を大切にしていましょ。

信頼できる大人とは、私たち教職員はもとより、保護者・地域の皆様です。私たちも生徒たちに信頼される大人、すなわち生徒たちを守る絶対の「守護神」となれるよう努力していきましょう。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校